

# 地下構造ビューアによる 電子地盤図データの表示演習

～地盤モデルデータのインポートから3次元表示まで～

地盤工学会 関東支部

関東地域における地盤情報の社会的・工学的活用法の検討委員会  
(委員長：龍岡文夫、副委員長：安田 進、幹事長：清木隆文)

株式会社ダイヤコンサルタント 鈴木 一成

---

# 地下構造ビューアの利用

ここでは、防災科学技術研究所から公開されている地下構造ビューアを用いた電子地盤図データの利用方法を紹介する。

演習としては、以下の内容を実施する。

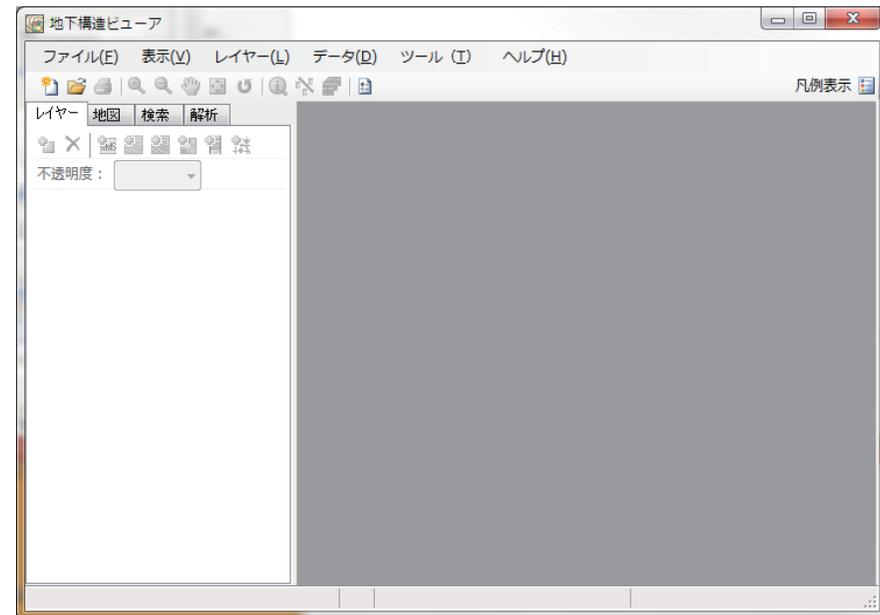
1. 電子地盤図モデルのデータ変換
2. 変換したデータの登録
3. 平面図の表示
4. 断面図の作成
5. パネルダイヤグラムの作成

# 電子地盤図モデルのデータ変換1

ここでは、防災科学技術研究所から公開されている地下構造ビューアを用いた電子地盤図データの利用方法を紹介します。



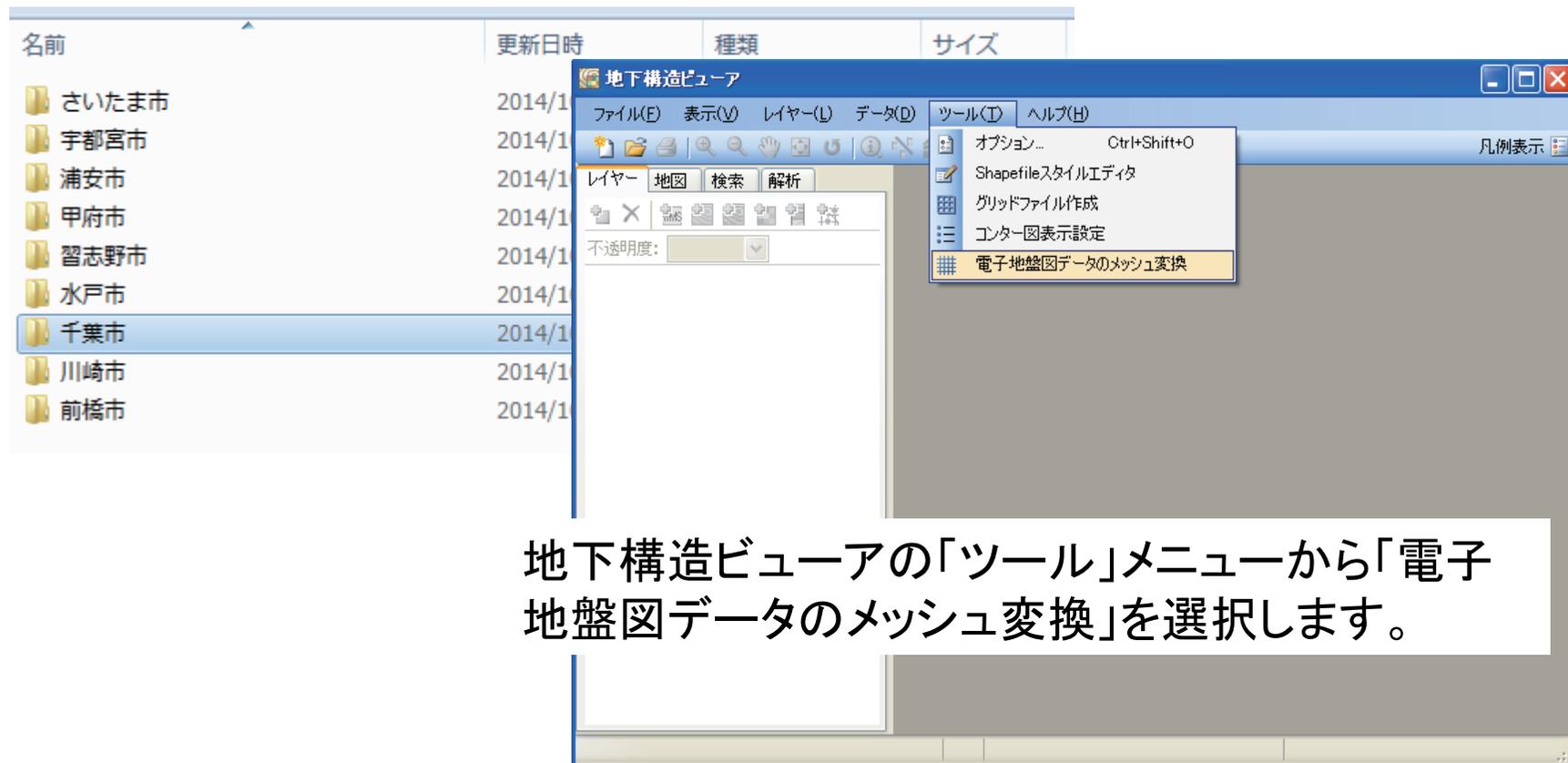
スタートメニューから地下構造ビューアを選択すると、右図の地下構造ビューアが起動します。



起動画面

# 電子地盤図モデルのデータ変換2

書籍からPCにコピーしたデータの中から、「電子地盤図」フォルダ内の千葉市フォルダを使用します。



# 電子地盤図モデルのデータ変換3

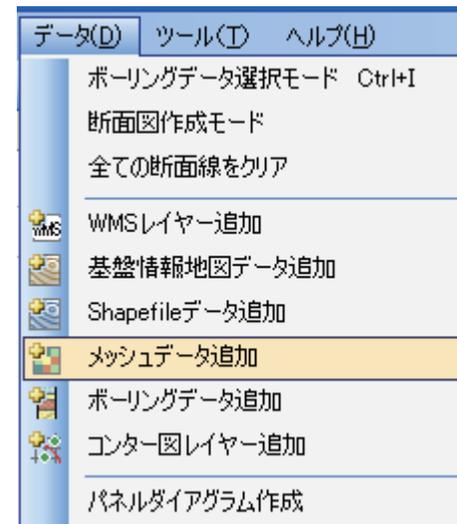
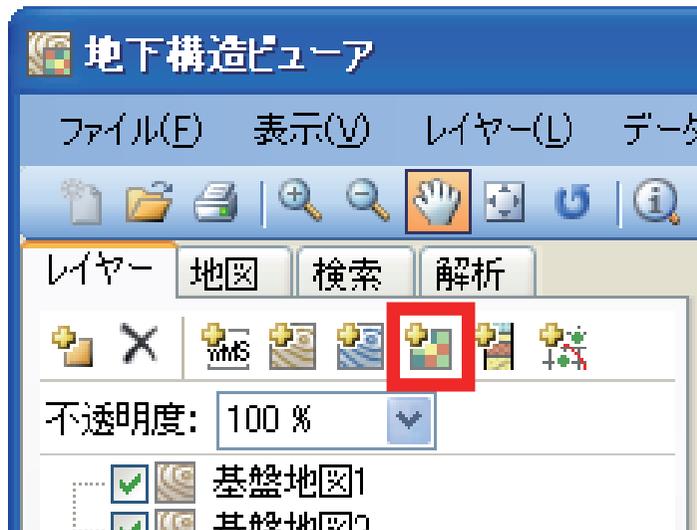
変換データ出力先のフォルダを作成します。



電子地盤図データのメッシュ変換ツールダイアログで、それぞれフォルダを指定して「処理開始」ボタンを押します。

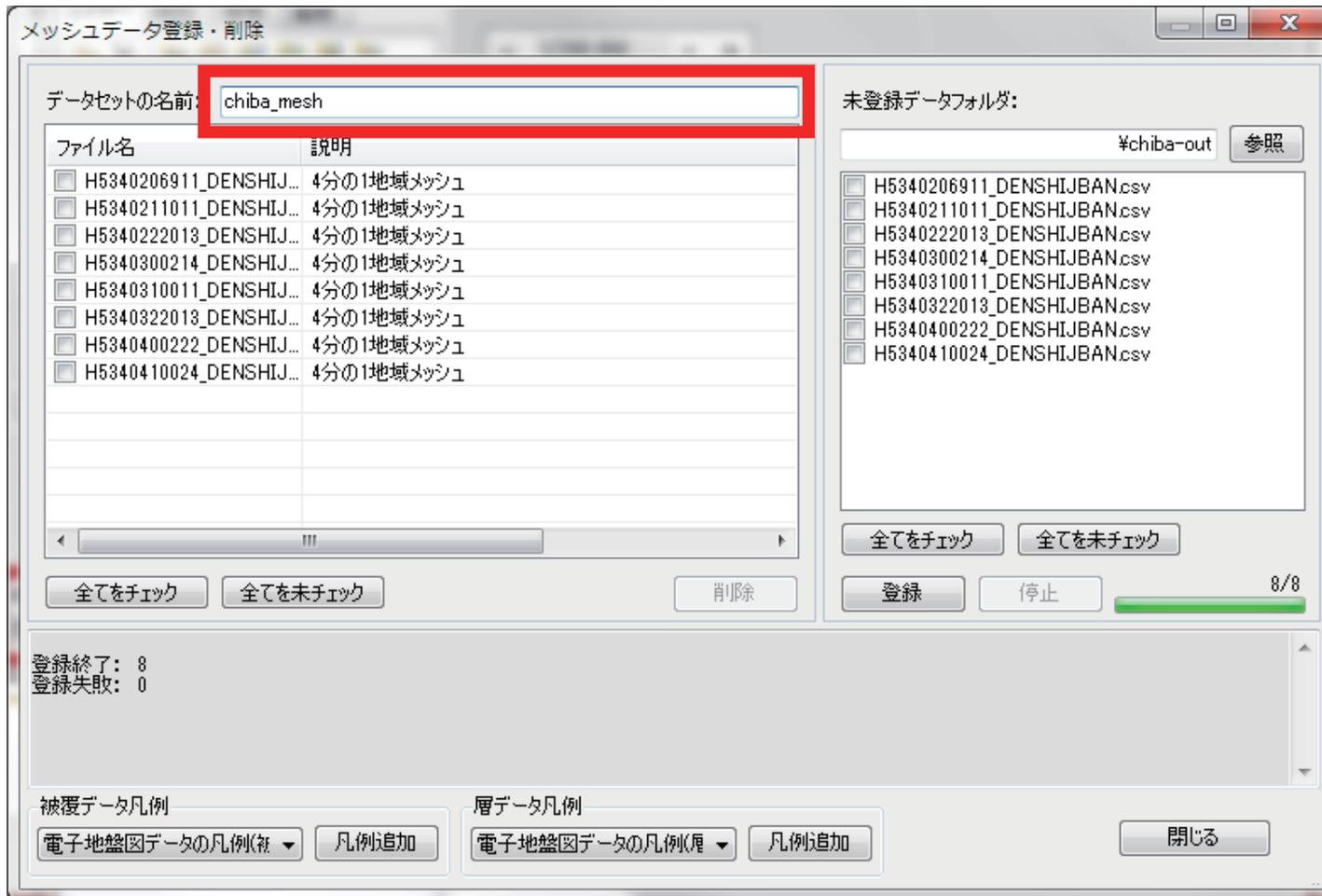
# 電子地盤図モデルのデータ変換4

メッシュデータ追加を選択し、変換したデータを指定します。



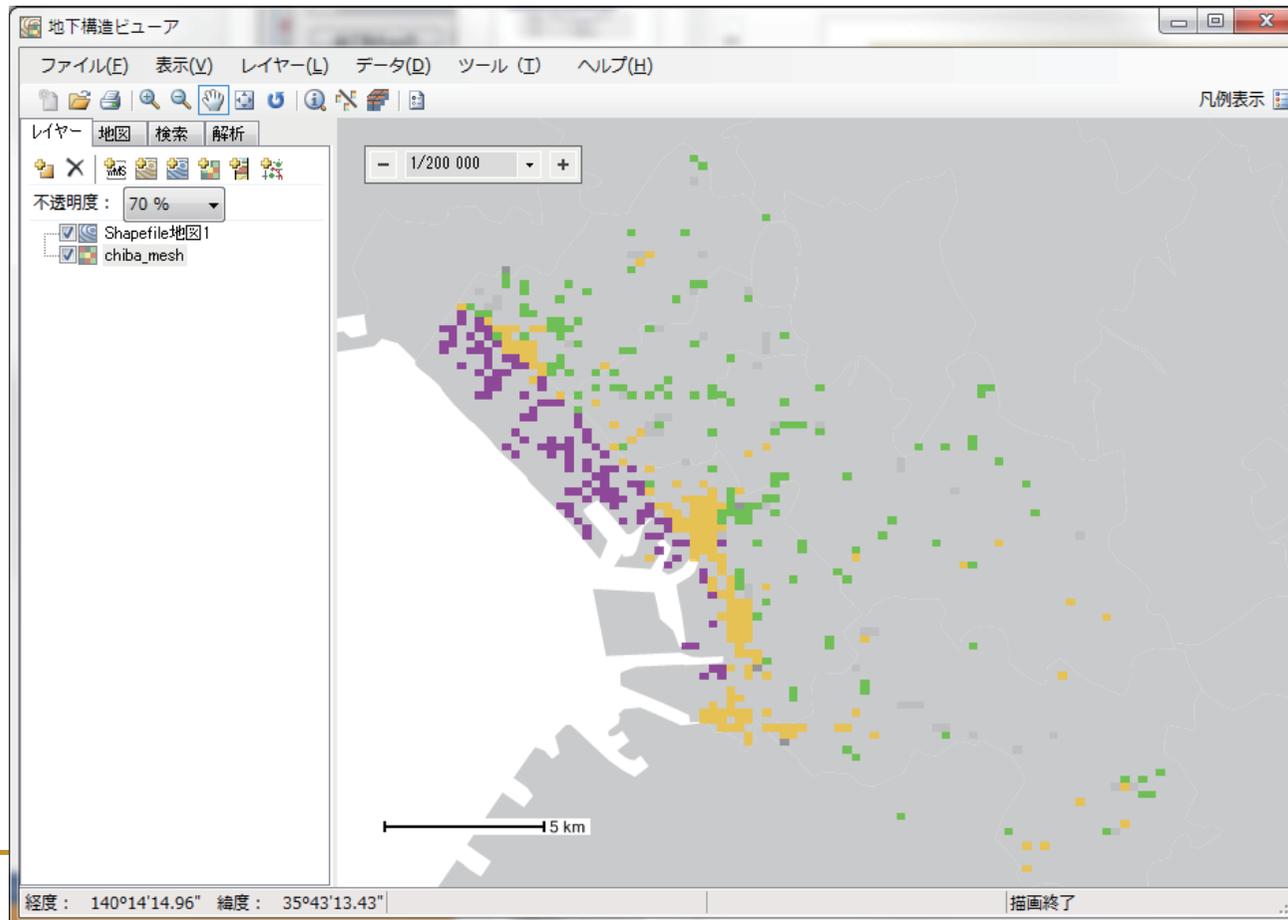
# 変換したデータの登録

赤枠部分を指定して、「登録」ボタンを押します。



# 平面図の表示1

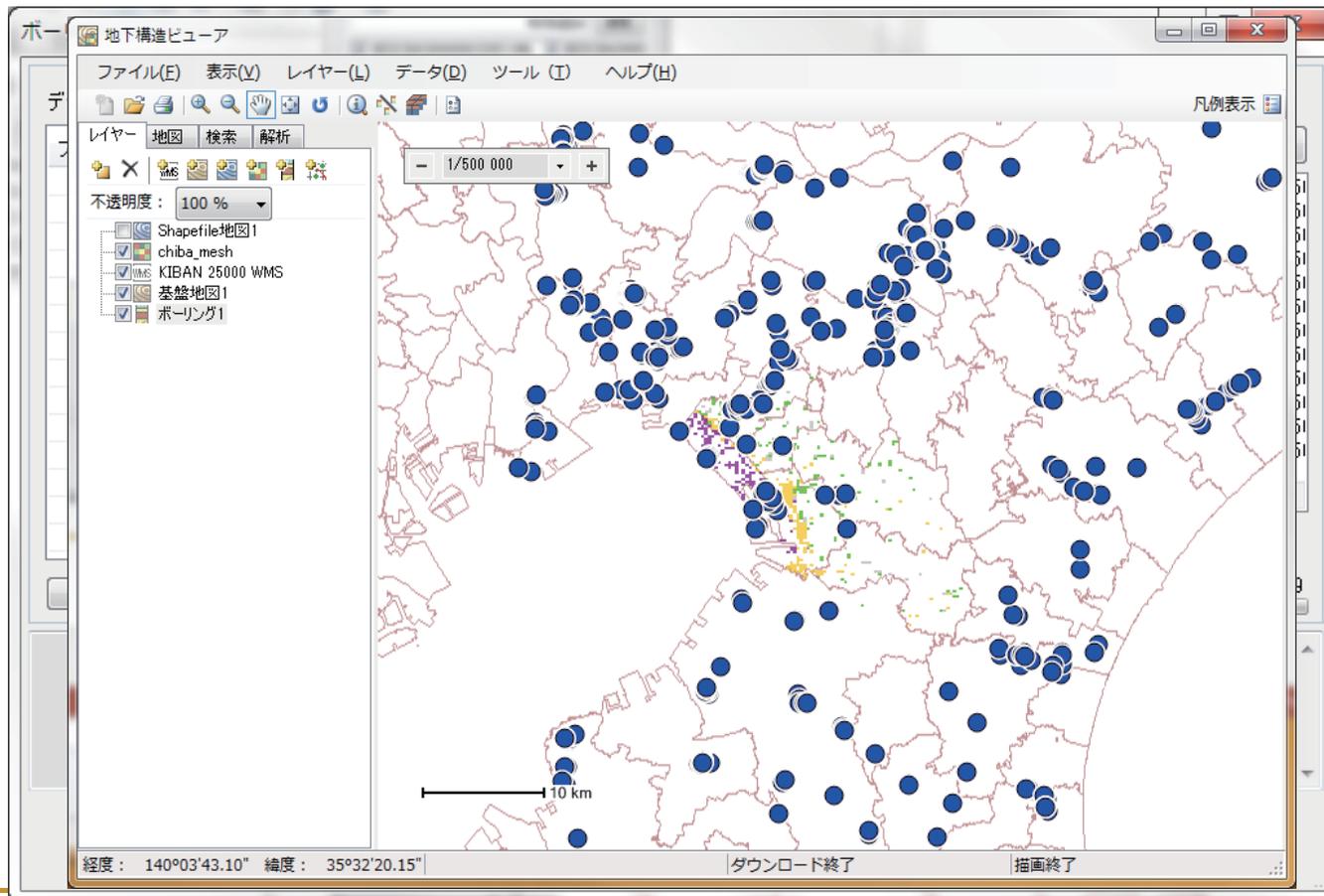
背景図にShapeFileの地図などを読み込み  **チェック** を入れて、位置がわかる地図を表示します。千葉付近を拡大することで、メッシュ図が表示されていることが分かります。



## 平面図の表示2

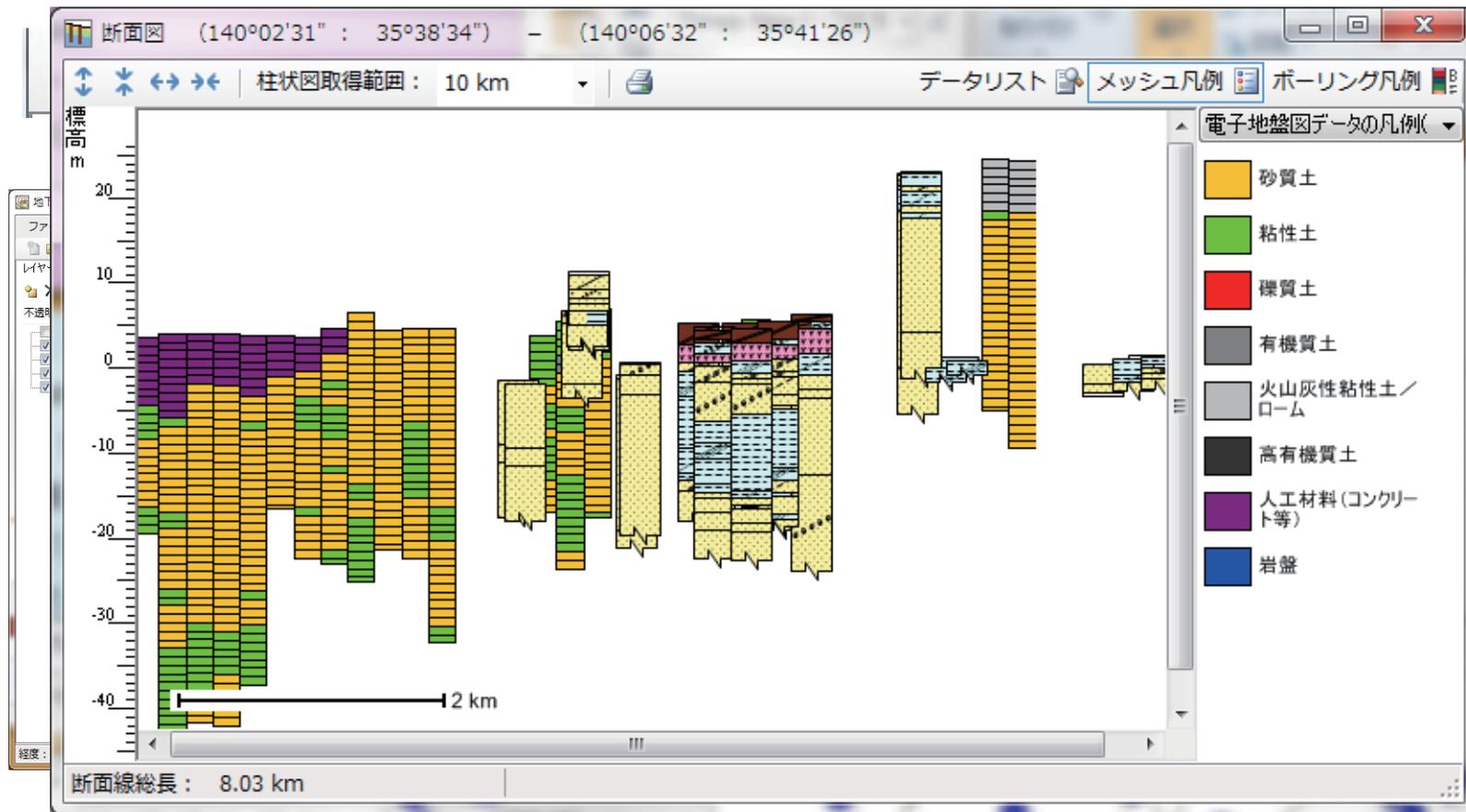
ボーリングデータの表示: BEDCBA200400001D001.XML

千葉のボーリングデータのみ抜き出し登録して表示した例です。



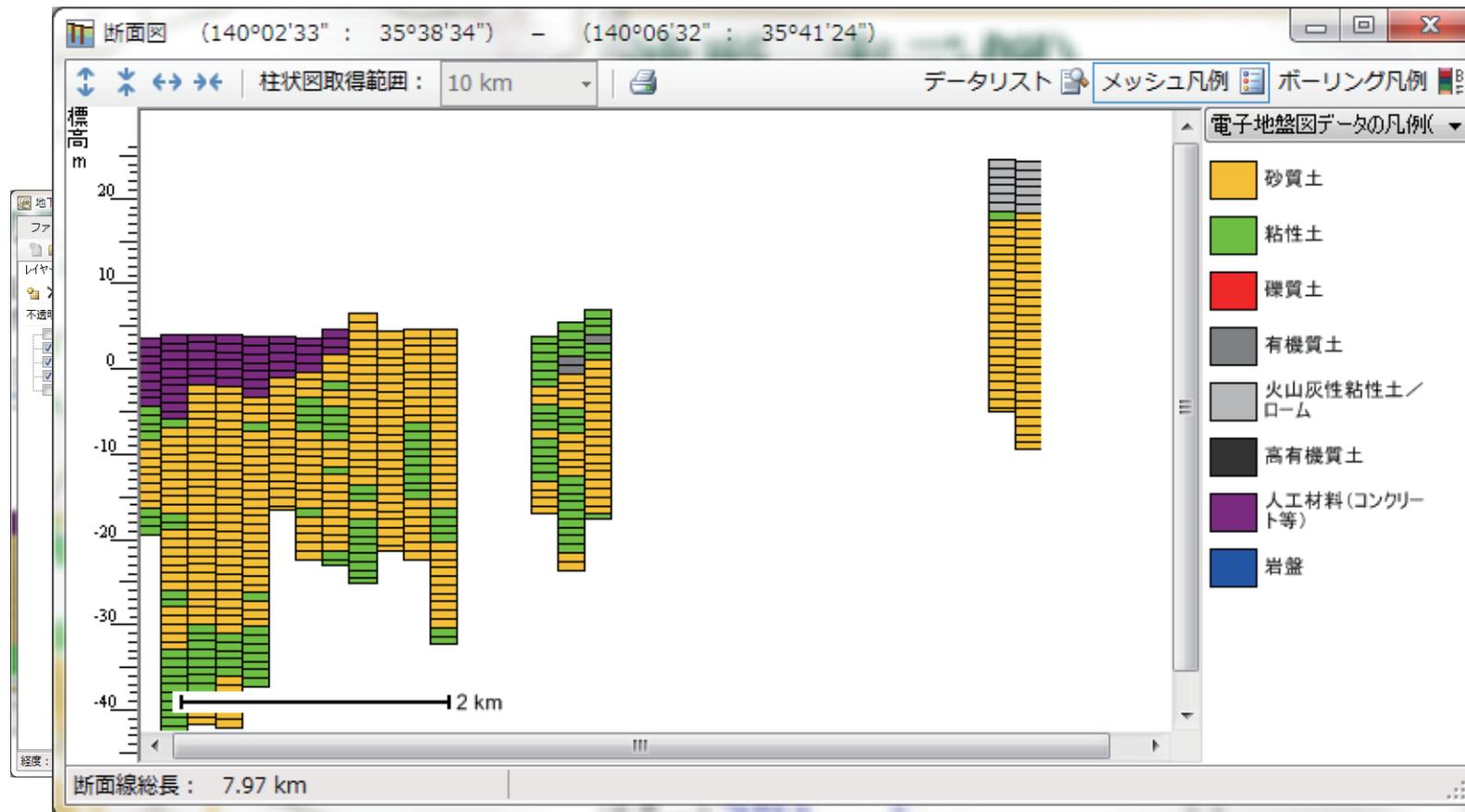
# 断面図の表示1

平面図を表示した状態から「断面図作図モード」を選択し、断面図を作成します。(柱状図データ表示状態)



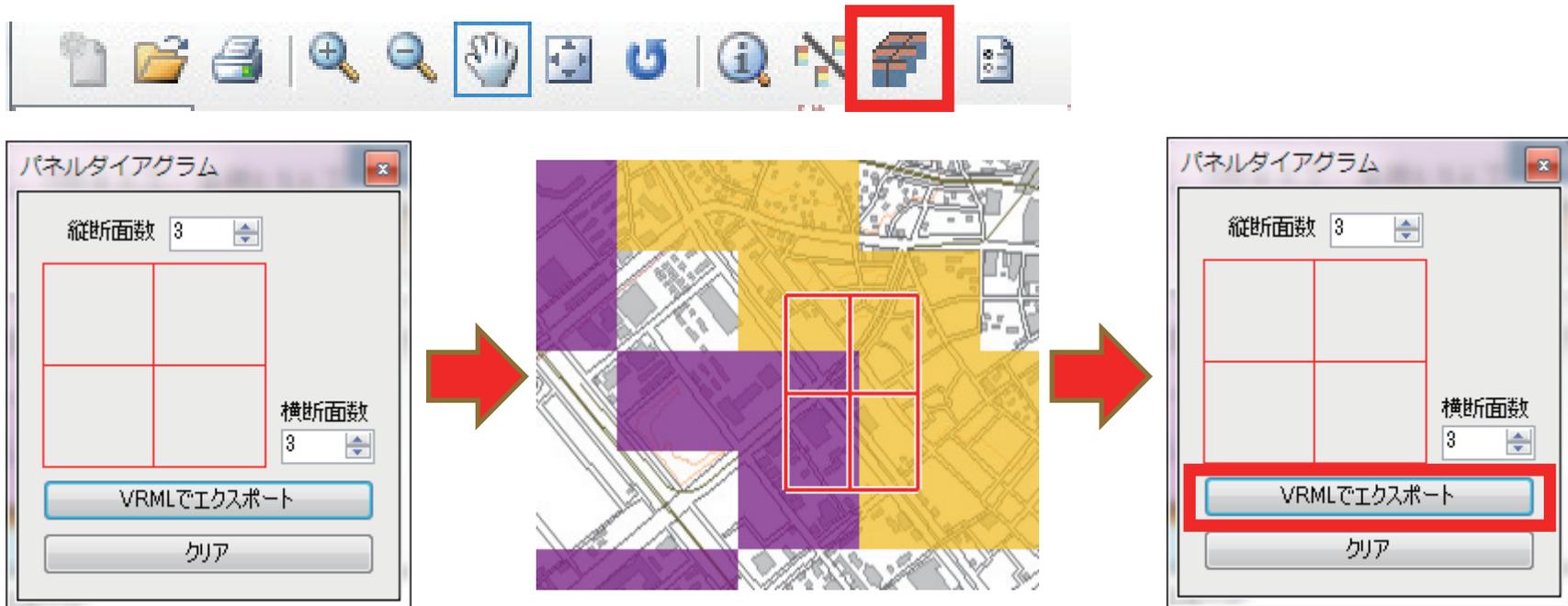
## 断面図の表示2

同様に平面図を表示した状態から「断面図作図モード」を選択し、断面図を作成します。(柱状図データ**非表示状態**)



# パネルダイアグラムの作成1

平面図を表示した状態から「パネルダイアグラム作成」を選択し、断面数を指定後、平面図上で断面線を指定します。



断面線を指定後、「VRMLでエクスポート」を押し、出力ファイル名を指定します。

---

## パネルダイヤグラムの作成2

VRMLファイルを開くと三次元で表示されます。

